

ICANN Montevideo について

丸山 直昌

ICANN Montevideo 会議は、2001年9月7日から10日まで、南米ウルグアイの首都 Montevideo で行なわれた。それに先立つ5日には APTLD の会合、6日には ccTLD の会合が持たれ、これらも併せて出席した。以下その概要である。

1. 日程と予想されていたテーマ(資料1参照)

予想されていた主なテーマのうち、特に JPNIC と関係が深いものは以下のものであった。

国際化ドメイン名
一般会員制度(At Large)研究委員会レポート
新 gTLD の評価プロセス
ccTLD 契約
ccSO (country code Supporting Organization)
- 会員資格
- 法人化するかどうか
- DNSO との関係はどうか(するか)
Alternate Root 問題

2. 会議の結果

国際化ドメイン名に関しては、加藤理事によるレポートが報告された。JPNIC が目指す IETF 主導による標準化プロセスが ICANN の場においても支持される方向にある。

一般会員制度(At Large)研究委員会レポートは、委員長の Carl Bildt 氏によってレポートの草案が示されたが、ドメイン名登録をしている個人に一般会員としての資格を与えるというもので、多くの否定的な意見が Public forum で出た。

新 gTLD の評価プロセスに関しては、今後のプランが示され、11月の ICANN 会合に向けて、新 gTLD の評価が行なわれる。なお、これに関連して Alternate Root 問題に関する JPNIC の見解を丸山が Public Forum で発表した。

gTLD に関しては、当初予定されていなかったが、.info で国名のドメイン名を当面 reserve することが ICANN 理事会で決議され、波紋を呼んだ。

ccTLD 契約に関しては、会議開催の直前に ICANN 側から説明文書が公開され、これに関して、ICANN のスタッフと ccTLD constituency の議論があった。ccTLD const. 側からは、このような会議間際の文書公開に不満が出たが、これは議論のスタートであって、今後11月会合に向けて議論を深めて行く、との説明であった。ともかく ICANN 側の考えを示す文書が公開されたことは、一定の進歩であったと言える。

.au に関して ICANN とオーストラリアの auDA の契約が承認された。

ccSO に関しては、ccTLD の二日間の会合の殆どの時間をこれに費やすほど熱心に議論されたが、ccTLD 外からの支持は前回の Stockholm の時ほどでは無く、前途は容易では無いと思われた。また、Stockholm での ccSO 結成に向けての議論に際して出た DNSO 脱退の問題に関して、丸山から「ccSO 創設を待たずに DNSO を脱退するのは軽率」との指摘を行った。結局「ccSO が創設されるまでは DNSO は脱退しない」という訂正決議が行なわれた。

ccSO 問題に関しては、会議の合い間に村井理事長、JPRS 堀田氏とも打ち合せの時間を持ち、意識合わせを行なっていた。その結果、「ccTLD は利害の異なる多数の組織の連合体なので、JPNIC としては利害関係が似通っているところとの協力を特に重視する必要がある」ということになり、ICANN との契約に積極的に取り組んでいるところとの情報交換に力を入れた。特にカナダの CIRA の President Bernard Turcotte

と Maureen Cubberley とは 9/7 に昼食を取りながらの会談を行ない、多くの有用な情報を得た。CIRA は未だ ICANN と契約に至っておらず、ICANN 側から示されている契約案については、ICANN 側の裁量が多過ぎて問題意識を持っているとのことであった。

国際化ドメイン名に関しては、Don Telage 氏 (Verisign GRS)、堀田氏と 9/9 夜食事を共にし、意見交換をした。Telage 氏は一度は引退したが、IDN の問題を担当する手が足りないということで、この Montevideo の 1 週間ほど前から復帰して IDN 担当となったとの事であった。なお、Tom Newel 氏は Verisign GRS を退職することになったといふことであった。

以上